

高齢化、核家族化や都市化の中で、従来の「助け合い」による人間関係は希薄になってきています。皆さんの身近にもさまざまな問題を抱えながら生活している人がたくさんいるかもしれません。あるときはボランティア活動に取り組み、またあるときはボランティアの支援を受けながら地域ぐるみで「互いに支え合うやさしいまちづくり」をすすめていきたいものです。

除雪中の「よろこびの家」のメンバー。玄関先の階段の雪も、きれいに取り除きます。一番奥が増子さん。



1月8日朝、福井の住宅街は前夜から降り始めた雪で真っ白に覆われていました。町内の方が除雪に汗を流す中、地域の協力員として福祉除雪サービスを行う、社会福祉法人札幌あさひ会の小規模通所授産施設「よろこびの家」の施設長、増子一枝さんと、施設の利用者3人の姿がありました。

福祉除雪とは

福祉除雪サービスは、高齢の方や障がいのある方の世帯の道路に面した間口と玄関先までの通路の雪を、地域協力員が除雪する制度です。協力員には活動費が支給されるため無償のボランティアではありませんが、利用世帯も比較的安価な負担金で除雪を依頼することができる地域の支え合いの制度です。

「よろこびの家」の活動の現状

「よろこびの家」は平成13年度に福祉除雪の地域協力員になり、今年は5世帯の福祉除雪を請け負っています。町内の民生委員からの活動の打診に応え、施設の皆さんの「やってみたい」という気持ちからスタートしました。雪の多い福井、3人1組の交代制でひと冬あたり20回程度の除雪を行っています。この日も次々と玄関先を除雪。「腕を痛めてしまって困っていたので、大変助かっています」と話す利用世帯の方からのジュースの差し入れもありました。また、除雪中に通リかかった福井南町内会の高橋和弘副会長は「高齢者同士で除雪も互いに助け合っているのが現状。こうして若い人が除雪をしてくれると助かります」と話していました。

活動の中で思うこと

増子さんは「このような活動をすることで地域とのコミュニケーションやつながりを持てることは大切。地域と共存していきたいと思っています。また、地域の方からもクリスマスにケーキを持ってきてもらったり、良くしていただいているんですよ。施設の利用者さんたちはみんなまじめで、除雪もとても頑張ります。みんなお金より、皆さんに喜んでもらうことが第一と考えています」と思いを語ってくれました。

互いに支え合って

一方「よろこびの家」には、日替わりで西野在住と平和在住のボランティアの方2人が作業や給食作りなどの手伝いに来ています。「2人とも経験豊かなボランティアの方で、忙しいときなど、本当に助かってます」と増子さんは語ります。互いに補い合い、助け合うことにより、地域に温かな交流が生まれています。

福祉除雪サービスの問い合わせ先

西区社会福祉協議会 TEL 641-2400 (内線459)